

令和5年6月議会報告

いつまでも
健康で暮らせる街
鴻巣

鴻巣市議会議員

藤村たかし



藤村たかし

プロフィール

鴻巣市議会議員 1期目

会派：新未来こうのす

市民環境常任委員

議会運営委員

昭和39年4月25日生 辰年 A型

鴻巣高校普通科卒業

立正大学短期大学部社会福祉学科卒業

(株)彩香らんど代表取締役

資格：介護福祉士・ケアマネジャー

認知症介護実践研修修了

ごあいさつ

鴻巣市議会 6月定例会が6月8日から28日までの21日間の日程で行われました。初めての議会で、不安と緊張のなかスタートいたしました。議席は9番で、3列ある2列目の壇上から見て左から3番目です。初日は、議案の上程、説明が行われました。その後の日程では、行政質問や議案に対する質疑、討論、採決、各常任委員会があり、各議員による一般質問、そして最終日に各常任委員長より報告、質疑・討論を経て採決となり、6月議会が閉会となりました。大変緊張しましたが一般質問もさせていただきました。今後も市民皆様の命を守れるような活動をしてまいりますので、よろしくお願いいたします。

討議資料

令和5年度補正予算（137,177千円）賛成多数で可決しました。

- ・コロナワクチン接種事業の個別接種協力金
- ・下忍小学校スクールバス運行事業の会計年度任用職員報酬
- ・箕田公民館管理運営事業の改修工事
- ・総合福祉センター1階へあしたば第一作業所と川里ポプラ館を統合移転のための改修工事等々のための補正予算が賛成多数で可決いたしました。

藤村たかし後援会 鴻巣市榎戸1 -4 -21

TEL 048-548-0001 携帯電話：090-8581-6007

藤村たかしの一般質問



質問事項：1 交通安全行政

(1) 交通事故防止について

ア 高齢者ドライバーに対する安全運転の取組について

イ 子どもや高齢者を交通事故から守る環境整備について

ア：高齢者ドライバーによるアクセルとブレーキを踏み間違えての事故について、事例を3つ読み上げて、高齢者ドライバーに対する安全運転の取組について、具体的にどのような取組をしているか本市の見解を伺いました。

イ：高齢者や子どもが被害者となる事故事例を読み上げて、子どもの通学路等において具体的にどこでどのような安全対策工事を予定しているのか、また進捗状況を伺いました。

アの答弁内容

自動ブレーキ搭載車のみを運転できる。「サポートカー限定免許」を導入するなど、警察においては、高齢運転者対策の充実、強化を図っています。

本市では、運転免許証自主返納サポート事業において、免許返納者に対して1年間有効の無料乗車証を交付「ひなちゃんタクシー」や「このす乗合タクシー」においても充実を図ったものとなっており、免許返納を促進し、高齢者ドライバーの事故防止につなげています。

イの答弁内容

国の通学路における合同点検等実施要領が作成され、埼玉県においても「第5期埼玉県通学路整備計画」を策定し、関係機関が一体となって安全対策を推進しております。本市におきましては、112箇所が整備対象となり、令和5年3月末時点では89箇所が完了し、今年度においては、歩道の拡幅、防護柵の設置等18箇所の通学路安全対策工事を予定しております。今後も子どもから高齢者まで地域の皆さんが安心して通行できる安全な道路環境の整備に努めてまいります。



質問事項：2 防災・減災行政

(1) 自然災害への対応

ア 水害に対する取組について

イ 地震や水害による避難場所について

ア：令和元年に大型台風19号が直撃したことに関して、今後市内で水害が起こった場合に備えての対策や取組について見解を伺いました。

アの答弁内容

台風19号における課題や教訓を反映し、避難所運営マニュアルの改定や避難方法や避難先、タイミングなどを事前に決めておくマイ・タイムラインの作成ができる鴻巣市水害ハザードマップを策定し、全戸配布いたしました。防災無線については、屋内で防災ラジオにより放送を受信できるよう電波到達性の優れた新たな防災行政無線システムを整備いたしました。このように水害をはじめとする自然災害に対し、市民の皆様生命、身体、財産を保護する取組を行っており、今後も防災関係機関と連携し、防災減災に努めてまいります。

イ：地震や水害による避難場所についての数・収容人数・備蓄品についての現状について伺いました。

イの答弁内容

水害による避難所を57箇所指定して、およそ1万8千人を収容、そして想定避難者数に応じた分散備蓄や市役所敷地内では各避難所で不足する可能性のある物資を備蓄する集中備蓄により対応しています。また減災のための自主防災組織を結成して地区防災計画を策定しております。今後も市民の皆様に対し、避難に関する市からの情報発信とその取得方法や、避難所に行くことだけが避難ではなく、在宅避難や個人でも複数の避難先を確保していただくことの重要性など、安全確保を図る行動について周知してまいります。